

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度第1回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和4年6月27日(月)午後2時～午後4時20分
開催場所	四番丁スクエア 1階 第1会議室
議 題	(1) 令和3年度事業決算報告 (2) 令和4年度事業予算報告 (3) その他 (4) 高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	高松市情報公開条例第7条第1号及び第4号に該当
出席委員	井藤委員、谷委員、穴吹委員、英委員、よしおか委員
傍聴者	0人 (定員 2人)
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

(事務局)

高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項の規定により、会議成立の報告。

高松市情報公開条例第7条第1号及び第4号に該当するため、議題(4)高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査について、非公開とすることを決定。

会長・副会長の選任について、会長は井藤委員、副会長は谷委員に決定。

議題(1) 令和3年度事業決算報告

令和3年度事業決算について、事務局から報告。

【たかまつ工芸ウィークについて】

(委員)

高松市は、効果をどのような指標で判断しているのか。また、ターゲットは誰なのか、また、ターゲットに対するアプローチは何かなどのビジョンが不明確であり、また、事業の主体が誰なのか、方向性は誰が決めるのかが分かりにくかった。

(事務局)

効果指標は、各店舗施設に来られたお客様の人数としている。

たかまつ工芸ウィークの方向性等については、実行委員会が主体となって話し合っていて決めていくことになる。市は実行委員会の一員として参加しており、作り手、販売店など実行委員会の皆様で話し合っていて決めていきたい。

議題(2) 令和4年度事業予算報告

令和4年度事業予算報告について、事務局から報告

## 審議経過及び審議結果

### 【伝統的ものづくり夏休み親子体験教室について】

(委員)

広報手段として、ホームページやSNSは相当なフォロワーが無いと、発信をしても効果がない。小学生への発信方法であれば、学校でのプリント配布を行うべき。

加えて、教育委員会と連携して、例えば夏休みの宿題を体験教室の参加で免除できる制度があれば、参加者は増加すると思うがどうか。

(事務局)

本事業は非常に人気が高く、昨年度も早期に定員を超えた申込みがあった経緯がある。学校を通じた広報は効果が非常に高いことは承知しているものの、定員を増やすなどの対応を行う必要があると考える。また、夏休みの宿題に関するご提案については教育委員会とも相談し、検討してまいりたい。

(委員)

講師への謝金を増やすなど、定員増へ対応はできないのか。

(事務局)

予算の都合がある。また、講師の負担、開催場所等の調整を行うなど、対応が必要となるが、検討したい。

### 【伝統的ものづくり産業発展事業補助金について】

(委員)

多額の補助をされているが、どのように評価をしているか。市・県に聞きたい。

(事務局)

実績報告書を精査するなかで、より効果の見込める使途で補助金を使っただけのようにしたい。

(県経営支援課)

市と協力し、事業内容を見て検討を積み重ねている。今後より良いものとしてほしい。

(委員)

長年補助を受けており、補助が当たり前となりつつあるのではないかと。定期的に発表やプレゼンなどの場を設け、緊張感を醸成してもいいのではないかと。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、見本市の開催など、状況は変わってきたと耳にしているため、反省を生かしながら事業内容を厳しく見ていただきたい。少なくとも、どのような形で実施されたのか可能な限りで教えていただきたい。

県では、発表や成果報告会などを行っているか。

(県経営支援課)

間接補助では行っていない。直接補助では協議会で審査を行っている。

(委員)

長く補助していると、何かしら使える事業を捻出することに繋がるのではないかと。石材や漆器に偏っており、他の産業でも納得できる事業に平等

に選んでいただきたい。

**【たかまつ工芸ウィークについて】**

(委員)

短期的に集客する事業なのか、中長期的にエリアとしてのブランディングを目指している事業なのかが明確でないのが問題であるとする。ビジョンが明確でないために参加事業者の利害が一致していないのであれば、改めて仕切り直すべきタイミングではないか。また、実行委員会に主体性を持たせることは良いことだが、高松市は委員長を務めているため、市としての意見を強く言う必要があるのではないか。

加えて、決算報告では、事業に対する市の評価を記入することが必要ではないか。たかまつ工芸ウィークの事業内容に対して市はどのように評価をしているのか分からないまま、来年度予算がつかなくなるとなれば、実行委員は理解できず、参加事業者に対して不義理である。活動資金は市の負担金に依存しているため、市としての事業の方針を提示していただき、もし、事業費の縮小があるのであれば、実行委員へいち早く説明を行っていただきたい。

(事務局)

作り手や販売店の方が多く参加されている中で、どこに焦点を当てるかは、まずは実行委員会の皆様で話し合う必要がある。市としては、その中で意見を集約し、方向性を明確にしていきたい。

事業に対する評価については、来年度以降の掲載を検討したい。

**【高松盆栽産地ブランド確立事業について】**

(委員)

小学生への教育が地元のみはもったいない。地元の小学生は、地元の事はよく分かっているのではないか。事業承継の問題は、かなり大きいと思うため、高松盆栽の郷を利用し、ワーキングホリデーや県外の大学生、県内出身で県外の大学にいる学生など、職業選択について現実的に考えるようになる高校生以上を対象とした働きかけを考えてはどうか。

県内よりは県外の人の方が、盆栽に対して興味を持っていると思う。県外の人々の興味が県内の人に伝わって、需要が増える流れもあると思うため事業承継の面も含めて、県外に向けてPRも増やしていただきたい。

(事務局)

宿泊を伴える研修施設「盆栽の匠」が国分寺町にあり、職人とともに技術を学んでいただけるが、周知が十分できていないと認識している。体験学習ではなく少しレベルの高い研修ができることを提案してまいりたい。

(委員)

2025年、大阪万博が開かれるとともに、サンポートはホテルの開業や体育館ができるなど人の動きも変わってくると思う。国分寺鬼無地域はJRを利用して7分程度で移動できる地域であるため、2025年に向けて、観光と産業の連携に留意した計画が今から必要になるのではないか。

(事務局)

産業の面と合わせて観光にも寄与できるアイデアを出していきたい。

**議題(3) その他**

(オブザーバー)

オブザーバーの皆様より御意見等をいただく。

議題（４）高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査  
補助金審査を実施。